

## 令和元年度 学校評価（最終）について

### 1 職員による評価

(1) 対 象 : 本校教職員 67 人（管理職，訪問教育非常勤教師，特別支援学校看護師を除く）

(2) 実施期間 : 令和元年 12 月 25 日（水）～令和 2 年 1 月 8 日（水）

(3) 内 容 : 15 の評価項目（7 のカテゴリー）

※ カテゴリーは，学校経営方針との関連で設定

※ 評価項目は，昨年度の結果を受けて今年度重要取組事項とした項目「重点」，その他「通常」で構成

#### (4) 評価方法

ア 4 段階評価「A・B・C・D」（表 1，表 2 参照）

イ 評価（判断）が困難な項目に関しては，「無回答：N」とする。

表 1 評価基準表①

評価	評 価 基 準
<b>A</b>	<p><b>（実施「済」，かつ，ねらい「十分達成」）</b></p> <p>○ 予定された取組が，計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され，ねらいの 80% 以上が達成されている。</p>
<b>B</b>	<p><b>（実施「済」，かつ，ねらい「まあまあ達成」）</b></p> <p>○ 予定された取組が，計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され，ねらいの 50% 以上 80% 未満が達成されている。</p> <p><b>（実施：「未」，かつ，計画性「十分」）</b></p> <p>○ 今後，実施予定の取組（現段階では計画進行中のため未実施である）に関する計画が，現時点で年度初めの分掌計画に基づき，係での検討や職員への提案・周知がなされ，進められている。</p>
<b>C</b>	<p><b>（実施：「済」，かつ，ねらい「やや未達成」）</b></p> <p>○ 予定された取組が，計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され，ねらいの 20% 以上 50% 未満が達成されている。</p> <p><b>（実施：「未」，かつ，計画性「やや十分」）</b></p> <p>○ 今後，実施予定の取組（現段階では計画進行中のため未実施である）に関する計画が，現時点で進められつつある。</p>
<b>D</b>	<p><b>（実施：「済」，かつ，ねらい「未達成」）</b></p> <p>○ 予定された取組が，計画的に（年間の分掌計画に掲げたとおり）実施され，現時点でねらいが 19% 未満達成されている。</p> <p>○ 予定された取組が，実施時期を逃して未実施の状況にある。</p> <p><b>（実施：「未」，かつ，計画性「不十分」）</b></p> <p>○ 重点取組事項の具体的な取組が，校務分掌の係業務として年間計画（校務分掌報告会資料）に反映されていない。（年度当初から計画されていない。）</p> <p>○ 大幅な改善が必要である。</p>
<b>N</b>	<p>○ 実施状況や計画の進捗が「分からない」若しくは，上記の判断ができない場合は「N」と回答する。 <b>無回答</b></p>

表 2 評価基準表②

有 ← 実施の有無 → 無

達成 ↑ ねらい達成状況 ↓ 未達成	実施 （実施済み～取組進行中）
80%～100% 達成	<b>A</b>
50%～80% 未満 達成	<b>B</b>
20%～50% 未満 達成	<b>C</b>
20% 未満 達成	<b>D</b>

## (5) 集計結果について

ア 回収率：100% (67人)

## イ 各学部の評価平均

	最終	中間
全体	3.52	3.47
小学部	3.62	3.59
中学部	3.55	3.48
高等部	3.43	3.32
事務部	3.56	3.61

## ウ 項目ごとの集計結果

			最終	中間
教育公務員としての責任・自覚 3.54	① (重点)	・人権ヒヤリハットについて、事例の振り返りや相互チェックを定期的に行い、教職員としての適切な言動ができるように心掛けているか？	3.52	3.45
	② (通常)	・「生徒指導等に当たっての自己チェックリスト」等を使うなどして、服務規律の厳正確保に努めているか？	3.57	3.59
業務改善への取組 3.42	③ (重点)	・会議や行事の精選、話し合いにおける効率的な時間活用がなされているか？	3.45	3.41
	④ (通常)	・データの整理や教材・教具の共有化などを行い、効率的な授業準備がなされているか？	3.38	3.17
安心して学べる教育環境の整備・改善 3.62	⑤ (重点)	・ヒヤリハット事例を素早く報告（情報共有）し、再発防止のための対策や改善策に活用されているか？	3.69	3.7
	⑥ (通常)	・校内外の施設や設備を整え、教室環境の整備・改善を行っているか？	3.55	3.44
地域や社会のニーズをとらえた教育活動 3.43	⑦ (通常)	・児童生徒の可能性を拓く取組や、進路先からの課題による指導内容・指導方法の見直しを行っているか？	3.44	3.33
	⑧ (重点)	・児童生徒の学習場面等において自己選択や自己解決につながる活動を行っているか？	3.41	3.47
一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実 3.38	⑨ (重点)	・目指す資質、能力を明らかにし、個別の指導計画を活用した授業づくりを行っているか？	3.34	3.27
	⑩ (通常)	・地域の人的・物的資源を活用しながら、児童生徒の良さや可能性を引き出すための指導方法、指導技術の研究・工夫をしているか？	3.43	3.39
本校における教育活動の理解・啓発 3.6	⑪ (重点)	・センター的機能の充実を図るための取組（巡回相談、学校見学会、離島研修会）を企画・運営し、本校の教育活動の理解・啓発に努めているか？	3.65	3.71
	⑫ (通常)	・ホームページの定期的な更新を行い本校の活動を伝えることができているか？	3.55	3.35
家庭・関係者（機関）等との協力・連携 3.61	⑬ (重点)	・就学相談やケース会、教育相談等通して学校間や学部間の連携や学びの連続性につながる取組を行っているか？	3.65	3.67
	⑭ (通常)	・児童生徒の健康の保持・増進（食に関する、歯磨き指導、運動の習慣化等）のための取組を家庭と連携して行っているか？	3.55	3.51
	⑮ (通常)	・児童生徒の状態について家庭や関係機関と共通理解を図り組織的な生徒指導が行われているか？	3.64	3.5

## エ 学校経営方針との比較

項 目	評 価 (中間)
(1) 公教育の基盤に立ち、全人教育の重要性と教育公務員としての責任を自覚し、教職員相互の信頼と協力により、教育目標の達成を図る。	<b>3. 5 4</b> (3. 5 2)
(2) 保健、衛生及び安全管理の徹底を図り、児童生徒が安心して学べる教育環境を整備する。	<b>3. 6 2</b> (3. 5 7)
(3) 新学習指導要領における育成を目指す「資質・能力」の三つの柱を踏まえ、地域や社会のニーズをとらえた一貫性のある教育課程の編成に努める。	<b>3. 4 3</b> (3. 4 0)
(4) 児童生徒の的確な実態把握と分析による適切な個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実を図る。	<b>3. 3 8</b> (3. 3 3)
(5) 大島地区唯一の特別支援学校として、インクルーシブ教育システムの構築に向け、地区内における特別支援教育のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動の理解・啓発に努める。	<b>3. 6 0</b> (3. 5 3)
(6) 家庭や児童福祉施設、近隣の幼・保・小・中・高等学校、地域社会及び関係機関との協力・連携を密にし、教育効果の向上と指導・支援の共有化を図る。	<b>3. 6 1</b> (3. 5 6)

## オ 今年度重点的に取組む事項から

重点取組事項	評価
(1) 児童生徒の実態や特性等を踏まえた適切な教育の追究 ⑨⑩	<b>3. 3 8</b> (3. 3 0)
(2) 安心・安全で働きやすい教育環境・職場環境の改善・整備③④⑤⑥	<b>3. 5 2</b> (3. 4 8)
(3) 児童生徒自らの気付き・学び・解決を促す進路指導の充実⑦⑧	<b>3. 4 3</b> (3. 4 0)
(4) 児童生徒の健康維持・健康管理の推進⑭⑮	<b>3. 6 0</b> (3. 5 0)
(5) 特別支援教育のセンター的機能の充実⑪⑫⑬	<b>3. 6 2</b> (3. 5 7)

## 2 保護者・学園職員による評価

- (1) 対象： 本校の保護者108人(戸)、学園職員8人  
 (2) 実施期間： 令和元年12月25日(水)～令和2年1月17日(金)  
 (3) 内容： 11の評価項目  
 (4) 評価方法： 4段階評価「4・3・2・1」と「0」

「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」  
 「1：そう思わない」「0：分からない(見えてこない)」

### (5) 集計結果

- ア 回収率： 91.3%(106人) 昨年度85.8%  
 イ 項目ごとの集計結果について  
 次頁より

### 令和元年度 学校評価(保護者・学園)結果

<評価基準> 4:そう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない 0:分からない(見えてこない)

評価項目	評価の視点	H30	R1	評価基準(内訳)					計	要努力度 (2.1の割合)
				4	3	2	1	0		
1 安全な教育環境	大島養護学校(以下、学校)は、児童生徒の健康安全や事故防止に十分配慮して、教育活動を行っていますか。	3.73	3.81	85	18	1	0	2	106	0.9%
2 整理整頓設備充実	学校は、物品が整理整頓され、施設設備が充実していますか。	3.68	3.65	75	22	7	0	2	106	6.6%
3 生徒指導	学校は、児童生徒が明るく生き生きと学校生活を送れるように適切な生徒指導等を行っていますか。	3.63	3.70	77	25	2	1	1	106	2.8%
4 個に応じた指導	学校は、児童生徒一人一人の状態や特性を理解し、生きる力(確かな力、豊かな心、健やかな体)を身に付けさせるために、個に応じた指導を行っていますか。	3.59	3.62	74	26	4	2	0	106	5.7%
5 進路指導	学校は、児童生徒の発達段階や保護者の願いを理解して、適切な進路指導を行っていますか。	3.58	3.58	68	27	5	2	4	106	6.6%
6 個別の教育支援計画及び指導計画	学校は、個別の教育支援計画や個別の指導計画において、保護者や学園担当者と連携して、具体的に分かりやすいものを作成していますか。	3.66	3.79	84	18	2	0	2	106	1.9%
7 理解・啓発	学校は、PTA総会や学級PTAなどで、教育目標や教育内容を分かりやすく伝えていきますか。	3.61	3.68	71	26	3	0	6	106	2.8%
8 児童生徒の情報の提供	学校は、児童生徒の日頃の学習を学級通信や連絡帳などで適切に分かりやすく伝えていきますか。	3.65	3.68	78	23	4	1	0	106	4.7%
9 相談への対応	学校は、保護者や学園担当者が児童生徒のことで連絡や相談をしたときに適切な対応を行っていますか。	3.60	3.69	78	22	4	1	1	106	4.7%
10 地域とのふれあい・社会参加	学校は、児童生徒が地域や社会の中で豊かに生活できるような機会作りに努めていますか。	3.50	3.55	65	33	7	0	1	106	6.6%
11 学校行事などの情報提供	学校は、学校行事や教育活動の様子をホームページや学部だより、PTA新聞等で適切に情報を提供していますか。	3.70	3.79	83	18	2	0	3	106	1.9%

### 3 分 析

#### (1) 教職員による自己評価の結果について

課題項目、良好項目を次のように設定する。

3.00未満・・・課題項目 該当なし 3.40以上・・・良好項目 13項目/15項目  
評価が3.00未満の項目

※ 課題項目のため具体的な対応が必要な項目と考える。 → ※今回は、該当項目なし  
評価が3.00～3.40の項目（もしくはCの評価が3人以上）

※ 良好項目を目指す必要があると考える。

##### ○ 業務改善への取組

④ データの整理や教材・教具の共有化などを行い、効率的な授業準備がなされているか？（3.38）

##### ○ 一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実

⑨ 目指す資質、能力を明らかにし、個別の指導計画を活用した授業づくりを行っているか？（3.34）

今年度の学校評価（教職員による自己評価）は、学校経営方針の6つの項目と関連付け、全国的な課題である業務改善を合わせた7つをカテゴリとした。さらに、7つのカテゴリを今年度の重点的取組事項と関連付け15の項目に分け、自己評価を行うことにした。このことにより、学校評価を行い、教育目標や学校経営方針、重点取組など評価し改善することでカリキュラムマネジメントの具体化を図ることができると考えている。

最終の評価結果については概ね良好な評価になっている。「良好項目を目指す必要がある」2つの項目についても引き続き重点取組事項としてあげていくことが必要であるが、中間の評価に比べると改善が見られている。今後の課題として、2つの項目の他に、記述で課題や改善策について挙げられているものについても分析を行い、来年度の重点組事項の検討や学校経営方針の見直し等につなげていく。

#### (2) 保護者・学園職員による評価の結果について

まず、毎年ではあるが、特に今年度においては回収率が90%を超え、保護者の御協力には本当に感謝いたします。更に、今年度も数値の上では高い評価をいただいている。概ね、良好な結果といえるのではないだろうか。保護者の方々は学校の行事について関心が高く、たくさんの参加をいただいております。その中で更に良くなってほしいという願いが伝わってくる学校評価であった。

ただ、それぞれの項目を細かく見ていると「2 あまりそう思わない」、「1 そう思わない」の評価が全体の5%を超えている要努力項目がいくつかある。（「2」「1」の評価の割合を要努力度という。以下、要努力度と標記）昨年度よりは全体の評価は上がっているが「個に応じた指導」「地域とのふれあい・社会参加」について要努力度が5%以上になっている。また「整理整頓、設備充実」「相談への対応について」も評価としては良好ではあるが、要努力度が5%を超えている。

来年度に向けて「整理整頓、設備充実について」は記述の内容等から、職員一人一人がまずは自分の周り教室から常に意識して気を付けていくことで変わっていくのではないだろうか。

「地域とのふれあい社会参加について」は、交流及び共同学習、産業現場等における実習、奄美○名人、運動会、発表会及びバザー、PTA 地域交流会などの様々な活動を行っている。このことを保護者に伝えたり、地域に情報を広めたりするなどホームページ等を使い、広報活動に努めるようにしていく。

「個に応じた指導」「相談への対応について」は、これまで以上に保護者への説明について丁寧に分かりやすく、そして、責任をもって行えるように心掛けるようにすることが重要であると感じる。

#### (3) 来年度にむけた具体策等

##### ○ データの整理や教材・教具の共有化などを行い、効率的な授業準備

各学部での授業案や教材について共有化がなされ効率的な授業準備につながっている。中間評価の結果を受けて、係がフォルダを作成し、データの整理を行ったことで評価が改善されてきた。今後は、活用方法など周知を図り、データを蓄積していくことでより改善されていくのではないかと。そして、それぞれが作成した教材を保存して共有化していくことで効率的な授業準備につながっていくと考えられる。

○ **目指す資質，能力を明らかにし，個別の指導計画を活用した授業づくり**

授業づくりについては，テーマ研究の係を中心に主体的・対話的で深い学びの実現に向けて共通理解を図り行うことができた。

「個別の指導計画を活用した」というところでは，研究の今後のテーマになるかもしれないが，それぞれの担任が個別の指導計画を意識して授業を行いながら評価を行っている。

ただ，個別の指導計画の重点目標につながる目指す資質，能力を明らかにするということが浸透しなかったのではないか。今年度は目指す児童生徒像（育成を目指す児童生徒像）の3つの項目を個別の指導計画の重点目標とリンクしていこうとしたが，共通理解が進まなかった感が否めない。来年度，目標を設定する際に，必ず目指す児童生徒像を確認することを周知していく。

○ **教育公務員としての責任・自覚について**

全国的にも教員の不祥事が多く取り上げられ，少なからず周りの目（地域，保護者，児童生徒）も教職員の言動について注目されている。今後も教育公務員としての責任や自覚をしっかりともち，相互に声掛けができる環境を築いていき人権についての意識を高めていく。また保護者に対して個別の指導計画や個別の教育支援計画等を説明する際に丁寧でわかりやすい説明を心掛けるようにする。

○ **その他**

それぞれの項目ごとではなく学校全体を通して学校評価において，数値だけ見ていけば良好な結果につながっているが，それだけでなく記述を含めた細かいところを見ていけば改善が必要な部分があるので，来年度に向けて書かれていることを頭にいれ，この良好な状況を継続していけるよう努力していきたい。

また，大島養護学校は徳之島，喜界島に支援教室がある。学校評価においては，本校に合わせた評価方法ではなかなか評価が難しく，支援教室の課題があってもそれを改善に向けていくことが難しい状況である。今後はより一層の連携を図り，課題解決に向けた学校評価について模索していく。